

就学前教育等における公民の役割分担について

1 就学前教育等の課題

(1) 子どもの育ち

- ・近年の子どもの育ちについては、基本的な生活習慣の確立や他者との関わりの仕方、自制心や耐性、規範意識が十分に育っていない等の課題が指摘されています。
- ・また、子どもの貧困対策の推進に係る法律に基づき、貧困の状況にある子どもが健やかに育成される環境の整備等を図っていくことや、いわゆる障害者総合支援法等に基づき、各種の障がい等を有する子どもへの早期の支援等を着実に行うことなどが求められています。

(2) 就学前教育等を担う人材の不足

- ・就学前教育等に対する保護者のニーズが多様化・増大する中、就学前教育等を担う人材の確保・育成が求められています。
- ・これまで、本市では就学前教育等における各種の課題について様々な調査・研究・実践を行い、職種を超えて職員の資質・技術の向上を図ってきました。
- ・就学前教育等それぞれに、求められる能力やスキル等は異なっていますが、人材の不足が全国的な課題となっている中、これまでの取組みの成果を踏まえ、公民を問わず子どもの育ちや子育て支援を総合的に実施できる人材を育成する環境整備を図る必要があります。

(3) 小学校等との連携

- ・子どもの育ちや学びの連続性を確保しながら、幼児期における小学校教育への円滑な接続を図るべく、これまで以上に小学校との連携を密接にしていく必要があります。
- ・子どもを取り巻く様々な環境の急速な変化や、保護者の子育てに対する多様で複雑な悩みを受け止め、家庭や地域、他の施設等との連携を一層図りつつ適切な支援を行うなど、深い専門性が求められています。

2 公が今後担う役割

公の役割については、社会情勢の変化に対応しつつ、これまでのノウハウを最大限活用して民間園所等の支援を行いながら、先導的に就学前教育等の更なる向上を図る必要があります。

(1) セーフティネットとしての就学前教育等の機会の確保

- ・低所得世帯の子どもたちに対する機会の確保

(2) インクルーシブな就学前教育等の推進

- ・各種の障がい等を有する子どもたちの受け入れ

(3) 就学前教育等を担う人材の確保・育成

- ・公民を問わず様々な現場で柔軟に活躍できる人材の確保・育成

(4) 子育て・子育てを支援するネットワークの充実

- ・各種の子育て支援事業の展開によるネットワークの充実